

令和7年度 東京都立田無高等学校 学校経営報告

令和8年3月31日

校長 長嶋 浩一

1 数値の経年変化と今年度の実績

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度目標	令和7年度実績
授業満足度(%) (学力伸長)	▼65	△67	△80	85	△84
英検準2級以上合格者数 (人)	△63	△105	△114	200	▼87
漢検準2級以上合格者数 (人)	▼21	▼15	△25	30	▼24
夏期講習講座数(講座)	▼13	△42	▼37	40	△40
生徒の1日平均 家庭学習時間(分)	▼34	▼19	△35	60	▼29
大学入学共通テスト受験者 (%)	22	△25.8	△27.1	30	▼17.9
現役進路決定率(%)	△98.4	▼95.1	△95.3	96	▼90.1
大学一般進学者 (現役)(%)	△26	▼21.4	▼17.9	20	△21.2
私立大学(GMARCH)現 役合格者数(人)	▼10	※5	△10	12	▼6
私立大学(成成武明学) 現役合格者数(人)	5	※3	▼2	5	△4
私立大学(日東駒専)現役 合格者数(人)	△22	※15	△20	25	▼12
私立大学(大東亜帝国) 現役合格者数(人)	△87	※51	△95	100	▼66
就職者数(うち公務員数) (人)	△7(2)	△11(5)	▼4(2)	5(3)	5(2)
特別支援教育に関する委 員会の開催回数(回)	10	▼7	△13	15	△15
部活動加入率(%)	▼68	68	△73	75	△75
学校満足度(生徒)(%)	▼69	△76	△84	85	△85
学校満足度(保護者)(%)	▼84	△87	▼85	85	▼84
本校第一志望者の割合 (%)	▼72	△76	△86	88	▼83
学校説明会等参加者数 (本校実施分)(人)	▼1,353	△1,836	△1,989	2,000	▼1,858
中学校進学対策委員会 志願倍率(倍)	△1.19	△1.26	▼1.16	1.20	▼0.96
入学選抜応募倍率(推薦) (倍)	▼2.30	△3.13	▼2.66	2.80	▼2.09
入学選抜応募倍率(第一次 募集)(倍)	△1.45	△1.50	▼1.21	1.25	▼1.19
ホームページ更新回数(回)	▼212	△222	△348	360	△394
一般需用費のセンター執 行率(%)	▼56.22	▼46.25	△50.92	53.00	▼44.7

備考 △前年度より数値が上昇 ▼前年度より数値が下降※令和5年度卒業生7クラス(その他は8クラス)

2 都の教育施策活用状況(概要)

- (1) 海外学校間交流推進校(オンライン等による海外の学校との交流、新規)
3月17日(火)に2年生が「外国人と生徒のグループ英会話による異文化交流」を実施。
英検のスピーキング対策として、ECCに外部委託し、10月にオンライン個別指導を実施。
- (2) 外部検定試験実施校(英検 S-CBT方式の全員受験、新規)
CEFRのB1(2級相当)到達者18名、A2(準2級相当)到達者193名、計211名。A2(3級相当)が289名
実際の2級合格者は7名、準2級(プラスを含む)合格者は61名。
個々の生徒について、4活動のうち弱点となる項目を把握し、克服していくことで、次年度におけるCEFRのスコアアップと、合格者の拡大を目指す。
- (3) 西部学校経営支援センター特別指定校(学習指導の充実、指定2年目) ※詳細は後述
教科主任会・教科会を活用し、授業PDCAを制度化。
ポートフォリオで授業評価・相互参観・自己分析を蓄積。授業満足度は、指定前より17ポイント上昇
- (4) 探究的な学び推進事業【TIPS-Type4】対象校(外部人材の活用、新規)
2年生の「総合的な探究の時間」において、地域の方々及び探究サポーターとして東京学芸大学(学部生、大学院生)16名の協力を得た。3月に成果発表会を実施。12月のTIPSフォーラムに2年生4名が参加。

3 学校評価の分析(生徒の回+答を中心として)

9割以上の項目で、昨年度より生徒の肯定的評価の割合が上昇。主に、「学校としての方向性の明確化」「組織的対応力の向上」が要因と推察。特に、以下5項目に着目し、具体的取組と成果との因果関係を考察。

- (1) 生徒の挑戦・活躍の機会拡大⇒学校満足度(「私は学校生活に満足している」)の向上
R7 生徒肯定率:85.3%(A 39.5% + B 45.8%) R6→R7:上昇(+4pt)
- (2) 授業改善ポートフォリオの定着⇒授業満足度(「学力を伸ばす授業が行われている」)の向上
R7 生徒肯定率:83.7%(A 30.6% + B 53.1%) R6→R7:上昇(R6の80%台→R7で83.7%)。
参考:授業領域の関連設問(裏付け)「補習・講習が充実している(生徒)」:R7=94.6%(A 52.4% + B 42.2%)。R6→R7:+29pt(「今年度は充実した夏期講習…複数教科で放課後講習…」)。授業改善の成果が学習支援に強く反映。
- (3) 進路指導部による、全教員の面接・志望理由書指導者分担・依頼⇒進路指導満足度(情報・相談)の向上
「進路ガイダンス/情報が充実(生徒)」:R7=89.6%(A 35.9% + B 53.7%)。生徒・教職員とも大幅増。
「保護者と進路相談ができています(生徒)」:R7=84.4%(A 46.3% + B 38.1%)。R6→R7:+14pt(2・3年の三者面談が奏功)。
- (4) 生徒支援マニュアル整備、支援会議・ケース会議の適時実施⇒生徒支援満足度(心のケア・相談体制)の向上
「心のケアや相談体制がある(生徒)」:R7=83.8%(A 35.4% + B 48.4%)。生徒・教職員で上昇傾向にあるが、保護者についてはやや低下傾向にある。学校の取組への理解を求め、対応の方針やシステムを周知・徹底することが課題。
- (5) 生徒会のSNS田無ルール策定、各委員会の呼びかけ等⇒生活指導への理解(校則・方針の納得感)促進
「校則や学校のルールは妥当(生徒)」:R7=70.2%(A 25.2% + B 45.0%)で、概ね上昇基調。
参考:「私は学校のルールをよく守っている」R7=96.0%(A 59.4% + B 36.6%)と生徒の肯定的回答の割合は高水準。しかし、実際には特別指導の件数が増加傾向。また、「登下校マナー」について、生徒の肯定的回答の割合は高水準を維持しているが、教職員はR6→R7で-6pt。学校の指導方針への生徒の理解は高まりつつあるが、すべての生徒の遵守意識を向上させていくことが課題。

4 西部学校経営支援センター特別指定校に伴う取組の効果検証

- (1) 課題の概要
 - ア 生徒の課題:学習意欲の底上げ、プレゼン力、自己肯定感、チャレンジ精神の強化。
 - イ 教員の課題:学習指導力向上、支援体制の充実、探究指導の研修が必要。

(2) 組織体制

- ア 中核組織:教科主任会・教科会の活用。
- イ 授業改善の取組:授業 PDCA を制度化。ポートフォリオで授業評価・相互参観・自己分析結果を蓄積。
- ウ 生徒の学習意欲喚起:授業の興味・関心を喚起する工夫を全体で推進。
- エ 生徒支援:特別支援教育推進委員会(月例)とケース会議を運用。連携機関と協働、支援フローチャート整備。

(3) 英語・探究・地域連携

- ア 2学年「総合的な探究の時間」の構造を刷新。探究コーディネーター配置、大学・市役所等での校外発表、「先生図鑑」「地域探究」等で発表機会を多様化。
- イ TGG(Tokyo Global Gateway)の行事化(R8～)、英検 S-CBT 全員受験(R7～)。
- ウ 海外学校間交流推進校(R7～)の指定、都の海外派遣研修(R5 UAE、R6 パリ)。

(4) ICT 活用と学習環境

- ア ICT 活用:Teams/Forms で小テスト・振り返り・教材共有を平時運用。
教員の ICT 活用意識の底上げを確認。
- イ 学習環境:自習・ミーティングスペース再整備。
大型モニター・ディスプレイ・スピーカー・ホワイトボード等を配備して「学びの場」を可視化。

(5) R5(センター特別指定校の指定前)→R7(指定後) 生徒肯定率(A+B)伸び一覧

観点(設問)	R5(%)	R7(%)	伸び(pt)
ア 学校満足度(私は学校生活に満足している)	76	85	+9
イ 授業満足度(学力を伸ばす授業が行われている)	67	84	+17
ウ 進路指導満足度(進路ガイダンス/情報が充実)	87	90	+3
エ 生徒支援満足度(心のケア・相談体制がある)	72	84	+12
オ 生活指導への理解(校則・学校のルールは妥当)	52	70	+18

※R7総合的な探究の時間:事前(関心・自信・分析)⇒事後で、意識の肯定回答が+8～+23pt 伸長。

R7 体力テスト平均が男子(R6 年度 48.9⇒**52.6**)、女子(R6 年度49.4⇒**50.9**)と、ともに向上。

(6) 想定リスクと対応策(短・中期)

- ア 想定リスク:探究における「考察」不足、教員側の探究指導経験不足
- イ 具体的方策:全学年で考察ルーブリック導入/相互参観+FBの月例化/生成 AI の出典明示・再現性確認を評価基準に組み込み、AI と人の役割分担を明文化

5 令和8年度に向けた改善の具体的方策

(1) 全校的マネジメント(教科主任会・組織運営)

- ア 授業評価・授業改善の観点統一(既案の具体化)
観察シートと生徒アンケート設問を完全に一致させ、「見たい行動」を教員が共有
3学年縦断で同一観点をを用いることで、学校全体の授業改善速度をさらに加速
年3回(4・9・1月)に PDCA サイクルを固定化、教科主任会で運用
- イ データ活用の常態化
CEFR/S-CBT データ、探究の事前事後データ、授業満足度等の「全校ダッシュボード」を作成
(Teams で閲覧可)
会議において、「感覚」ではなく「数値」で議論する文化を継続深化

(2) 授業・学習指導の改善(学力向上)

- ア 「学習サポート体制」の再構築(体制強化)
教科主任会で、①補習・講習計画、②授業改善の重点観点、③家庭学習課題の標準量を毎月レビュー
特に、R7 で低下した家庭学習時間(29 分)の改善を優先
- イ 放課後時間の再設計(探究と両立)
「探究の発表練習+文章指導の時間」を、週1で固定枠化
放課後講習と競合しないよう「曜日固定ルール」を導入

- ウ ICT 活用の深化
 - Teams 小テストの「誤答分析」を全教科で共有、分野別弱点の可視化→補習への接続
 - Forms の直後フィードバックを「全授業で必須化」
- (3) 進路指導の強化(データと伴走支援)
 - ア 面接・志望理由書指導の全教員体制の定着
 - 教員間の指導レベル差を減らすルーブリック、質問例の統一テンプレートを作成し標準化
 - イ 卒業生バンクの組織化
 - 現状の「個別依頼型」から、科目別／志望分野別に登録データベース化
 - 6～10月の進路行事に計画的に配置し、生徒が「等身大のロールモデル」に出会う機会を増やす
 - ウ 英検ロードマップの一本化(既案の具体化)
 - 「3年生で準2級(CEFR B1)」「2年生でA2 後半」等、級別の到達モデルを明示し、各学年で統一運用
- (4) 生徒支援(特別支援・相談体制・保護者対応)
 - ア 保護者理解の向上(課題の明確化)
 - ケース会議の「学校としての方針」を、①お知らせ、②学年通信、③保護者会で明文化して発信
 - 「学校が何を根拠に支援しているのか」を可視化、信頼性向上
 - イ 支援フローチャートの全職員浸透
 - 新年度研修で、「この場合はこのルート」をロールプレイ付きで確認
- (5) 生活指導(校則・SNS・登下校マナー)
 - ア 「遵守意識」の底上げ(課題:特別指導数増加)
 - 生徒会と共同で①田無ルールの動画化、②登下校マナー週間の設定
 - 「守ることができている生徒を可視化」する施策(スタンプ・表彰)でルールを「評価される行動」に転換
 - イ 指導の一貫性確保(教職員の温度差対策)
 - 事例共有会議で、「望ましい指導」「NG 指導」を明文化したチェックリストを作成し、指導ブレを抑制
- (6) 総合的な探究の時間(TIPS・外部連携)
 - ア 探究の「型の再設計」(既案の具体化)
 - 全学年で、①問い生成、②調査、③分析、④考察、⑤社会発信の統一テンプレートを導入
 - 特に弱点となる「考察」を、ルーブリック+例示+生成 AI の出典確認義務化 で補強
 - イ 外部発表の「定常化」
 - 大学(東京学芸大・武蔵野大・亜細亜大等)、行政(西東京市)、企業/NPO と年間計画で連携し、毎学期に少なくとも1回の外部発表を保証。
- (7) 広報・学校魅力化
 - ア 説明会の魅力強化(第一志望率回復)
 - ①探究成果、②英検成果(S-CBT の強み)、③授業改善のデータ、④部活動 72→75%の伸長を、「ポスター化・動画化」して中学校へ発信。
 - イ 広報チームの機能強化
 - ホームページ更新回数が増加 ⇒ R8 は“記事の質と戦略性”を向上
 - 「月1テーマ」を設定し、計画的な訴求へ

6 令和8年度の重点項目

- 【重点①】授業改善の観点統一と学年横断 PDCA
 - R7 で 17pt 伸びた「授業満足度」をさらに押し上げる基盤。
- 【重点②】探究の型の再構築と発表機会の年3回化
 - 自己効力感・挑戦機会・学校魅力の向上に直結。
- 【重点③】進路指導と学習習慣の再設計(補習・家庭学習)
 - 現役進路決定率(90.1%)の改善と、第一志望率回復の要。